

Web連載

注目！がん看護における 最新エビデンス

**伊藤奈央**

東北大学大学院
医学系研究科 保健学専攻
緩和ケア看護学分野博士後期課程
岩手医科大学 看護学部
共通基礎看護学講座 講師

**宮下光令** 教授

東北大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 緩和ケア看護学分野

第44回

COVID-19パンデミックと 緩和ケア病棟 カナダにおける家族の情報ニーズに 関する横断研究

Ginah Lee Kim, Anna Berall, Sandra Gardner, Janel Brookes,
Marsha Natadiria and Giulia-Anna Perri. The COVID-19 pandemic and palliative
care units : A cross-sectional survey of the informational
needs of caregivers. Palliative Medicine 2021, Vol. 35 (3) 627-631.

COVID-19パンデミックにより病院では面会が制限され、入院中の患者だけでなく家族も精神的苦痛を感じている状況が続いています。

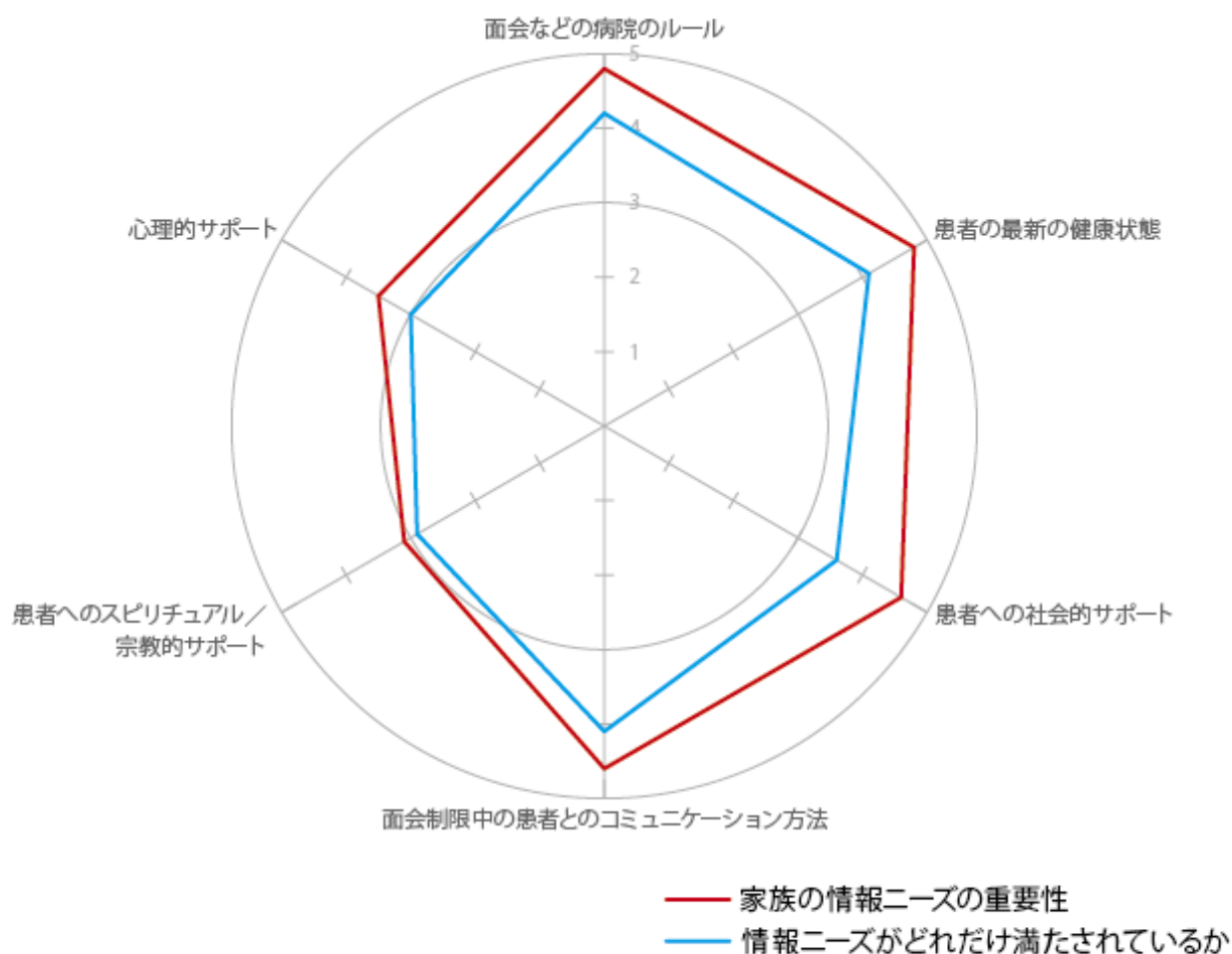
これまでCOVID-19による面会制限が余儀なくされた中で、家族はどのような情報

ニーズがあるのかは明らかになっていませんでした。そこで今回は、COVID-19による面会制限が出された後に発表された緩和ケア病棟入院中患者の家族の情報ニーズについての研究を紹介します。

この研究は、カナダのトロントにある1施設の緩和ケア病棟で、2020年の4月から5月にかけて、COVID-19パンデミックによる面会制限が出された後に行われました。対象は緩和ケア病棟に入院している19人の患者の家族で、調査は電話で行われました。調査の内容は、いくつかの項目について情報ニーズの重要性とそのニーズがどの程度満たされているかを1～5の5段階で評価し、さらには追加の情報ニーズやコメントなどを自由回答するというものでした。

19人の患者の平均年齢は81.5歳、家族の平均年齢は55.7歳、研究に参加した家族の多く（84%）は患者の子どもでした。家族の情報ニーズとそれがどれだけ満たされていたかを図に示します。

図 家族の情報ニーズの重要性と情報ニーズがどれだけ満たされているか



情報ニーズについて重要性が高いと評価されていたのは、「面会などの病院のルール」「患者の最新の健康状態」「患者へのソーシャルサポート」「面会制限中の患者とのコミュニケーション方法」でした。また、家族の情報ニーズをどれだけ満たしているかについては、「面会などの病院のルール」の評価が最も高く、次いで「患者の現在の健康状態」「面会制限中の患者とのコミュニケーション方法」でした。

COVID-19パンデミックにより面会が制限されていることで、家族は「面会などの病院のルール」について情報を得ることが重要ととらえており、研究が行われた緩和ケア病棟では家族のニーズに見合った情報が提供されていたことが示されました。さらに、「面会制限中の患者とのコミュニケーション方法」と「患者のスピリチュアル／宗教的サポート」についての情報ニーズは、女性の方が男性より重要と高く評価していました。

自由回答では、家族の情報ニーズについて質的に分析し、3つのテーマが示されました。①スタッフとのコミュニケーション、②組織的なコミュニケーションと方針、③患者とのコミュニケーションです。それぞれのテーマは、促進因子、ギャップ、バリア、提案、満足感について分類されました（表）。

表 自由回答から得られた家族の情報ニーズに対するテーマ

	テーマ① スタッフとのコミュニケーション	テーマ③ 患者とのコミュニケーション
促進因子	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族に毎週/毎日状態を報告する ● 家族に面会制限やCOVID-19の最新情報を提供する ● 家族に共感を持って情報提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族は視覚的に患者の顔を見ることで安心する ● 声の小さい患者にはバーチャルでの面会が役立つ ● 携帯電話を持つ患者は家族がいつでも電話をかけられる
ギャップ	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族は患者の心理社会的情報を求める ● 家族はこれまでより頻繁なコミュニケーションを求める 	
バリア	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族はいつ、誰から最新情報が得られるか予測できずストレスを感じる ● 家族への頻繁な電話がスタッフの仕事に影響を与える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族の中でもバーチャルの面会オプションを知らないことがある ● 病院のWi-Fiパスワードを患者のデバイスに入力することは時間がかかる ● 家族は患者と面会できないことを苦痛に感じる
提案	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族は患者のカルテへのオンラインでのアクセスを希望する ● 家族はスタッフと電子メールでのコミュニケーションを希望する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族へのフォローとバーチャルでの面会を計画する ● 複数の家族がバーチャルで面会できるようにする
満足感	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体的に家族はスタッフとのコミュニケーションに満足感を示す 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族はバーチャルで面会できることで安心につながる

緩和ケア病棟に入院している患者の家族は、面会制限の中で、精神的苦痛を抱えており、医療者が家族の情報ニーズを満たすことで、その苦痛が多少でも緩和できると考えます。医療者から意図的に家族へ情報を伝えることはもちろんですが、直接対面で面会することができない状況でも、電話やタブレットなどを使用して面会できるよう配慮することもエンドオブライフケアにおいて重要です。

いとうなお：2000年弘前大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程卒業。岩手県立中央病院勤務（2018年3月まで）。2005年岩手県立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程を修了し、2010年がん看護専門看護師の認定を受ける。2018年より岩手医科大学附属病院高度看護研修センター緩和ケア認定看護師教育課程の専任教員を務め、2021年より現職。

みやしたみつのり：1994年3月東京大学医学部保健学科卒業、臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

この商品の内容に関するお問い合わせは[仙台事務所](#)
お急ぎの場合は、TEL (022) 261-7660におかけください。
※土・日・祝は対応しておりません。

ご注文に関する内容・変更・追加などのお問い合わせは、
お客様センターフリーダイヤル0120-057671に
おかけください。

※本サービスは事情により予告なく終了することがございます。
あらかじめご了承ください。

ページトップに戻る



Copyright© nissoken. All Rights Reserved.

お客様センターフリーダイヤル 0120-057671